

## モラルの再考

学生担当 小木曾文内



「モラル(moral)」は、広辞苑では「道徳」、「倫理」などと訳されています。この言葉は、「習俗」「風習」を意味するラテン語「mos (mores)」が語源だそうです。「モラル」は、「習俗」から発した「社会的規範」に影響されやすいものですが、本来は個人の決断により生み出される自発的な道徳的側面を強くもっています。「社会的規範」は時代により変化する要素もっているため、当然、「モラル」も変化する可能性はありますが、その語源の通り、長い年月で培

われた「風習」や「慣習」がその基盤にあるため、基幹となる部分に大きな変化はないはずですが、近年、社会のグローバル化やIT化など、生活様式が著しく変化したことで、「社会的規範」や「モラル」にも変化が見受けられます。このような社会状況下では多様な「モラル」が混在していて、年代差により生じた諍いごと、ネット上への不用意な書込みや誹謗中傷、安易な情報操作による情報漏洩など、種々の社会的問題が増加しています。「モラル」の変化に起因している事例も多いことから、時代や社会環境に左右されない普遍的な「モラル」を見つめ直す時期にきています。知識や技能の修得に偏重しがちな歯科医学教育においても、社会が要求する以上に高いレベルの「モラル」をもった歯科医療人育成により力を注ぐべき時代がきたようです。  
(教授 歯科保存学)

## 学部長選挙の結果

大塚吉兵衛歯学部長の日本大学総長就任に伴う辞任(8月31日)により次期学部長選挙が7月11日に実施されました。まず学部長候補者選挙(有資格者は教授、准教授、専任講師、参事、参事補の128名)が行われ、越川憲明教授(薬理学)が有効投票の3分の2以上の票を得ました。

引き続き、同日の教授会にて日本大学学部長選挙規程第11条第1項ただし書きの適用により越川教授が次期学部長に選出されました。任期は9月1日から3年間です。

## 基本構想と将来展望

### 一越川憲明新歯学部長に聞く一



**歯学部長ご就任おめでとうございます。今のお気持ち、ご感想をお聞かせください。**

先般行われました学部長候補者選挙では、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

およそ100年の歴史を有する伝統ある本学部の学部長に就任したことを大変光栄に存じておりますとともに、学部の責任者としての責務も強く感じており、これからの本学部の運営・管理に緊張感をもって臨む所存です。多様な時代において、取り組むべき課題は多く、これからの皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

**近年の歯学教育環境の変化には著しいものがあります。今後の本学部の歯学教育に対するお考えをお聞かせください。**

本学歯学部を創設された佐藤運雄先生は「歯科医師は歯学に限ることのない幅広い知識と見識を備えていなければ、社会において尊敬される存在とはならない」と述べられたと聞いております。

近年、共用試験の導入、国家試験問題の出題基準の厳格化、卒直後研修制度の導入など、我が国の歯学教育は確かに大きく変化しています。しかし、これら歯学教育の環境変化は、永年の歯学の歴史の観点からみると一時の現象に過ぎ

ません。本学部の教育の在り方を考えると、現在も受け継がれている佐藤運雄先生の提唱された教育理念は、これからも不変でなくてはならないと思います。本学部の教育の持続的な発展は、創設時の原点を再認識して創設者の理念を具現化することにこそあるものと考えています。すなわち、これからも患者さんのために、「広い視野を持ち、高い教養と品格を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する」という基本姿勢を堅持していきたいと思っております。

**学生の課外活動等への期待やサポートについてのお考えをお聞かせください。**

歯科医師は、まず患者さんから尊敬される人間でなくてはなりません。学生は単に課せられた授業を受けるだけでなく、課外活動やクラブ活動なども人間形成の一助であると認識して研鑽を積むことが大切です。そのため、学部としては学生が幅広い人間関係を築けるように、学生生活委員会などを通じて課外活動やクラブ活動の充実に、物心両面から積極的に支援していきたいと考えています。また、本学部の後援会による、資金面の学生生活支援には大変感謝しております。更なるご理解とご協力を頂きながら、学生生活の充実に図っていきたくと考えております。

**本学部には、大学院や総合歯学研究所が設置されています。研究組織・体制の課題と今後の展望についてのお考えをお聞かせください。**

大学教育の真髄は、言うまでもなく、大学で遂行されている先進的な研究の裏付けがあることです。この裏付けがなければ、歯学部は技能の習得のみを目的とした専門学校の域に留まってしまいます。本学部は佐藤運雄先生の唱えられた「医歯一元論」のもとで、医学の一分科としての歯科学を目指し、広い視野と豊かな人間性を育む目的で、基礎と臨床の研究に力を注いできた伝統を持っています。この姿勢は、本学部が歯学のなかで大学院をいち早く開設した歴史からも窺い知ることができます。また、本学部は歯科学の研究を総合的に行うため、総合歯学研究所を開設しています。そこでの研究活動や成果は国際的に評価の高い学術雑誌や国際学会において発表されておりますが、それらの成果が教育面においても十分に反映されることが重要であると考えております。

大学院における基礎研究の重要性は、今後、

広く周知されるべきではないかと考えています。現状では、基礎系講座と臨床系講座から成る3分野(口腔構造機能学分野、応用口腔科学分野、口腔健康科学分野)において、複数の教員が大学院の学生を共同で研究指導する組織体制がとられております。時代の進歩に即した新しいコンテンツとシステムを随時取り入れて、課題探求能力の高揚を目指した研究環境の整備に心がけてきたことにより、幅広い領域で広い視野と高度な先進的医療技術を持つ教育者と研究者の育成において着実に成果が挙がってきています。各研究分野では、臨床系講座と基礎系講座が密に連携して研究が遂行されております。しかし、臨床系の研究は応用科学としての側面が強く、基礎的な研究の確立なくしては十分な発展は望めません。臨床系講座を窓口に入学者が多いのが現状ですが、今後は基礎研究に興味を抱く大学院生が多く入学されることを希望します。

**付属歯科病院の病院機能について、また今後の新病院構想についてのお考えをお聞かせください。**

現状の歯科病院は、組織が多様化し細分化されているため、本来の機能が十分には発揮されていないように思います。これは講座名を反映させた診療科の名称が数多く混在しているためと考えます。今日では、初めて来院した患者さんにとって分かり易い医療システムが求められていますので、各診療科や診療科目を再編成していく必要があります。病院執行部のもとで、診療科の編成などの諸問題について再検討をしていただきたいと思います。

現在の歯科病院は老朽化しており、時代に合った歯科病院の建設は急務です。新病院の建設は本学部の創設100周年のメイン事業と考えています。学部長として歯学部の将来を見据え、若手の臨床医が新病院の構想や建設計画に積極的に参加できるような環境を整えていきたいと考えています。

**歯学部の財政や管理・運営面における課題と、その対策についてお考えをお聞かせください。**

当面の財政の課題として、歯科病院の抱える慢性的な赤字体質の改善に取り組む必要性を感じています。先ほど述べましたように、歯学部では間もなく新病院の建設に向けた取り組みが始まりますが、この財政問題を放置したまま

建設に着手することはできません。今後の財政収支の収入面を考えた場合、学費の増額は期待薄ですので、病院の赤字体質の改善は急務です。研究に関する財政面では、現状でも一定程度の学内研究資金は提供されておりますが、現在ある学内研究資金を今までのように講座に配分してしまったのでは、今以上の研究の推進は望めません。景気の現状を考えると、今後暫くは、学内研究資金の減額はあっても増額は望めない状態です。研究をより活性化するには外部資金の獲得を目指す必要がありますが、科研費の獲得増加の取り組み以外に、学内研究資金を増額して使えるような各種の資金補助事業をうまく取り入れる方策を、研究委員会主導で模索する必要があります。

管理・運営面では、学生数の減少に伴った教員の人事に取り組む必要があります。単に人員の削減を行うのではなく、教員を適正に配置する必要があります。すでに本学部では6年前に教員の任期制を導入しましたが、活力ある人材を重用する目的での再任や昇進などの人事を、統括的に行う組織作りが遅れていたために、その有効的な運用がなされているとは言いがたいのが現状です。そこで、学部長の諮問機関として、教員の人事に関わる委員会を新たに発足し、人事問題に積極的に取り組んでいきます。このことにより、将来を担う有能な教員の適正配置が実現できるものと考えています。

**最後に、本学部の学生や父母にメッセージをお願いいたします。**

学生諸君には、先に述べた本学部の創設者である佐藤運雄先生の言葉をまず肝に命じて頂きたいと思います。本学の掲げる「自主創造」の理念のもとで、自ら学ぶ態度を身につけて、6年間を通して一般教養、基礎医学、歯科臨床医学を総合的に学習し、歯科の技能の習得だけでなく、広い視野と豊かな人間性を身につけて、社会に貢献できる歯科医師になるよう研鑽を積まれることを切に望みます。

後援会には、これまでも教育機器の購入や学部行事などに多大なご支援を頂き感謝しております。教育ならびに学生支援のため、今後も学生に最も効率的に還元できる方法とその円滑な運用を考えております。また本学部は、間もなく100周年の節目を迎えます。この記念事業につきましても、皆様の一層のご支援をお願いいたします。

## 教育診療医講習会

臨床実習運営協議会委員長 大木 秀郎

卒前臨床実習は、歯科医師臨床研修医制度が定着するとともに、自験（学生自らが診療を行う）を伴う診療参加型臨床実習への充実が望まれつつあります。本研修会は、本学部の臨床実習を円滑に進め、かつ学習効果を向上させ、教育診療医の学生教育に対するレベルアップを図ることなどを目的として、平成11年度から毎年実施されています。本年度は、8月19～20日の金曜日、土曜日の2日間、「効果的な臨床実地問題の指導方法を考える」を研修テーマとして、本学部で実施され、越川憲明教授、付属歯科病院長、学務担当、FD委員会委員長・副委員長、運営委員ならびに受講者の計62名が参加しました。

また、今回初めて基礎系講座11名ならびに摂食機能療理科1名の先生方の参加を得ることが



~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~

## 平成23年度第1回FD講習会

歯学部FD委員会委員長 今村 佳樹

歯学部FD委員会では、7月4日(月)に、学務委員会、企画・広報委員会、附属歯科技工専門学校、附属歯科衛生専門学校との共催で、平成23年度第1回FD講習会を開催しました(参加者96名)。今回は、大学評価・学位授与機構研究開発部准教授、森利枝先生を講師にお招きして、「科目等履修生制度から学位取得へ—大学評価・学位授与機構の学位授与制度」の演題で御講演を頂きました。この制度では、専門学校

でき、PC、液晶プロジェクター等を駆使した作業が展開され、IT時代に即したFD活動に相応しい研修会となりました。

全体研修は、開会式の後、基調講演「国家試験の現状と対策」から開始されました。第104回の歯科医師国家試験成績の分析結果を踏まえ、現第5学年生を対象とした国家試験対策の一環として、臨床実地試験過去問題を臨床実習期間内に制覇するための方略についてグループ討議が重ねられました。研修2日目には、学務委員会により予め作成された過去問題のCD-Rを資源とした成果物の作成とグループ発表により熱い全体討議が行われました。

基礎系ならびに臨床系講座の先生方の交流が得られ、教員としての連帯感を高めるために有意義な2日間でした。

なお、閉会式では受講者に修了証が渡されました。(教授 口腔外科学)



~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~ ~ \* ~

卒業生が学部の授業に出席し一定の単位に達すると、機構による審査を経て学士(口腔保健学)の学位が授与されます。(教授 口腔診断学)



## 平成24年度 第4学年から CBT成績が進級判定要件に

学務担当 前野 正夫

共用試験(CBT、OSCE)は、医学・歯学系の大学・学部等が社会に教育の質を保証することを目的として、平成17年から正式に実施されています。本学部では、これまで第5学年の6月に実施し、CBT成績を進級の要件には位置づけていませんでした。しかし、臨床実習を第5学年の4月から始められるように、本学部も平成24年度から実施時期を第4学年の1月に移行し、CBT成績を進級判定要件に組み入れることにしました。

教科名：総合歯科学演習1単位を第4学年後期に新たに配置。

評価：成績評価表示(S・A・B・C)

CBT結果(正答率)	合否判定	成績評価表示
100～90%	合格	S
89～80%		A
79～70%		B
69～60%		C
59%以下	不合格	

なお、本試験当日に受験できなかった者及び本試験結果が合格基準に満たなかった者には、CBTの追再試験の受験を認めます。ただし、追試験受験者はA評価を上限とし、再試験受験者はC評価を上限とします。

OSCEの成績は、進級判定には組み入れませんが、OSCE不合格者は、その後に補完授業を受け、合格基準に達するまで第5学年における診療参加型臨床実習には参加できません。

近年の歯科医師国家試験は、資格試験から選抜試験への性格をもつようになっており、本学部の学生にもそれを乗り越えられる能力を身につけることが求められます。このたびのCBT成績の進級判定要件への組み入れは、共用試験および歯科医師国家試験にストレートで合格できるための改善策です。ただし、これらの試験勉強を当該学年から始めたのでは、とても間に合いません。学生諸君は、入学時からの学習の積み重ねが重要であることを肝に銘じて、日頃から勉学に励んでください。(教授 衛生学)

## 日本人として初めて 米国歯周病学会 Clinical Research Awardを受賞

社会人大学院生として本学大学院歯学研究科博士課程を本年3月に修了した森田十誉子氏(現ライオン歯科衛生研究所研究部副主任研究員)が筆頭著者の「歯周病とメタボリックシンドローム発症との関連性」を調べた論文(J Periodontol 81, 514-519, 2010)が標記の賞を受賞しました。本研究はライオン歯科衛生研究所と本学部衛生学講座の前野正夫教授、本橋正史教授と共同で行ったもので、歯周病を予防することがメタボリックシンドロームの予防につながることを独自の手法で解明したものです。今回の受賞は日本人初の受賞です。受賞式は米国フロリダ州マイアミ市で開催される2011 AAP Annual Meetingの期間中(11月14日)に行われます。



## 「肺結核の予防」

宿野部 恭子

東京都は、結核患者が全国で2番目に多いところです。結核菌は、排菌している患者の咳などから周囲の人の鼻や口に入っても、そこで止まれれば感染しません。しかし、消えずに肺で増殖すると「肺結核」を発病します。肺に感染しても発病しない状態が「潜在性結核感染症」ですが、結核菌は増殖する速度が遅いので、半年から2年後に発病する場合があります。肺結核の主な症状は「咳・痰・倦怠感・微熱・体重減少」です。学校では集団感染しやすく、患者が出たら患者周囲の接触者に検診をし、保健所は直後から2年後までフォローします。

早期発見は、定期健康診断の受診及び咳が2週間以上続いたら受診で可能になります。また、睡眠と食事を適切なサイクルでとり、体力・免疫力を高めておくことも大切です。(保健室)

## 進学相談会

7月28日(木)と8月27日(土)に、歯学部及び歯科技工・衛生専門学校進学相談会が開催されました。会場には教員による相談コーナーや在校生のブースが設けられ、来場者からの質問は入試科目に関すること、受験競争率、学費のこと、クラブ活動等の学生生活等多岐にわたりました。資料閲覧コーナーも設置され来場者は相談の順番待ちの間に学部案内や授業計画、クラブ活動状況等の資料を熱心に見入っていました。

校内見学には多数の来場者が参加し、実際に授業で使用している教室、図書館、歯科病院内を見学しました。また、7月には、中島一郎教授による「医療人に必要なコミュニケーション能力について」、8月には、大山哲生専任講師による「がんの手術は終わったけれど」顎の骨や顔を失った患者の治療のテーマで模擬授業も実施されました。来場者に理解してもらえよう普段馴染みのない歯科用語を噛み砕いて説明しました。

来場者数は2日合計で約260名でした。



## 平成23年度第2回 歯学部公開講座

### 平成23年度第2回歯学部公開講座について

**演題** 「リラックスできる歯科治療」  
—安心・安全・快適に  
治療を受けるために—

**講師** 准教授 見崎 徹 (歯科麻酔学)

**日時** 平成23年11月5日(土)13時30分～

**場所** 本学部4号館第3講堂(3階)

一般の方にもわかりやすい内容となっております。皆様の御来場をお待ちしております。詳細は本学部ホームページ <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/homej.html> を御覧ください。

問合せ先.....本学部庶務課(03-3219-8001)

## 佐藤研究費海外派遣研修に参加して

清水千津子

平成23年度佐藤研究費海外派遣研修員として8月21日から9月4日まで、スウェーデン、スイスを訪問しました。イエテボリ大学やジュネーブ大学の研修では、論文や研究を基に歯周病学の講義が行われ、さらに診療の見学、PMTCの実習を通し、改めて基本の重要性と臨床の柔軟性を確認できました。また、高齢者施設や歯科衛生士専門学校を訪問し、入居の方々や先生方、生徒の皆さんと交流を持ち、日本の制度との違いなど様々な情報を得ながら充実したひと時を過ごしました。今回の研修では、歯科衛生士として視野を広げる良い機会となりました。さらに研鑽を積み歯科病院に貢献していきたいと思えます。(技手1級) 歯科衛生室)



## 随 想 自分を残すために

戸原 玄



まず、未曾有の大震災により被災された方々に心よりのご冥福とお見舞いを申し上げます。本年の災害は直接の被害が甚大であり、さらには先の見えない対応を余儀なくされる放射能といった多大な影響を及ぼしています。直接の被害が少なかった関東においても、地震直後には「雨に当たると危険」というチェーンメールが回るなど、生活さらには生命の危険を感じた方は相当数に上るものと思います。

以前から考えていたことですが、今回の震災で改めて感じたことを書かせていただきます。自分は「摂食・嘔下りハビリテーション」という歯科の中では比較的新しい分野の臨床や研究を行っています。現在は今後を担ってくれる多くの後輩たちが育ってくれていますが、数年前には歯科ではこのような医療はほとんど行われていませんでした。ある時、この分野で著名な若手の先生と二人で酒を酌み交わしているときに、「今ここに車が突っ込んできて二人とも死んだらどうする？今のままでは二人が死んだら何も残らない。今後はいつ何があってもいいように後輩をたくさん育てよう。」と話したことを記憶しています。

我々にとって“生活の崩壊”もしくは“死”はいつ訪れるかわかりません。今まで何十年も大切に続けてきた仕事や自分の存在は、自分の生命が無くなった瞬間に消えるのでしょうか。ある生物学者によれば、自己の複製を残すためには二つの方法があるそうです。ひとつはもちろん遺伝子、genomeです。もう一つは文化を通して自己を残すという考え方で、これをmeme(ミーム)というそうです。ある人の考え、アイデアなどがよいものであれば、それは人から人へ伝えられます。さらに、それらが高い評価を得るものであれば、その考えはより一般性、永続性をもったものになりえます。自分がいいと思える仕事をするだけでなく、残すこと。それがとても大切なことであると思います。

(准教授 摂食機能療法学)

## Student Clinician Research Program (SCRP) に参加して

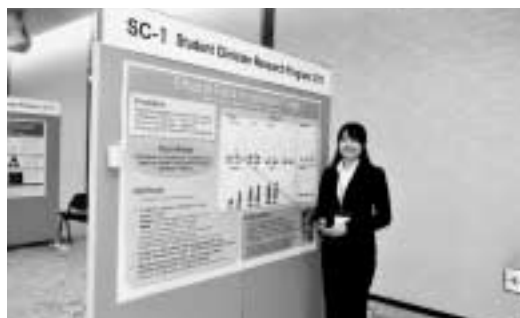
露崎 亜美



私は、“Effect of Flavor in Impression Taking「印象材の風味が印象採得に及ぼす影響」”のテーマにて研究を行い、8月に行われたSCRPに参加する機会を得ました。印象採得を少しでも快適にするために、印象材に自分の好きな香りをつけちゃおう！という私の研究は、正直なところSCRPで発表するには恥ずかしいレベルの研究なのでは？と不安でした。しかし、Faculty advisorを引き受けて下さった歯科補綴学教室 講座の石上友彦教授や大山哲生先生が「あなたのやりたい研究をやるのが良いと思いますよ」と背中を押して下さり最後までやり遂げることができました。

大会当日、21の歯科大学の代表者が緊張した雰囲気の中、各々の研究成果を発表しました。審査の結果、私は上位入賞を果たせませんでした。自分の研究内容をみんなが熱心に聞いてくれることがとても嬉しく、この大会に出場できて良かったと思いました。また他大学の発表を見て、同じ学生がこんなにも素晴らしい研究をしているのかと本当に刺激的で、その英語力の高さにも驚かされました。大会が終わる頃、競い合ったライバルは“一緒に歯科医を目指す仲間”となり「またいつかみんなで会おう」と誓い合いました。

最後にこの大会に出場できましたこと、石上教授、大山先生をはじめ、アドバイスを下さった先生方、応援してくれた仲間のもとより約100名の被験者の方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。(第5学年)





## 第 1 学年の今

第 1 学年 坂田 誠

前期授業が終わり大学生として初めての夏休みを経験した。クラブの合宿やお泊り会などで仲間たちと親交を深めあった今、私たちに4月の初めのようなお互いに距離を測りかねていた雰囲気はまるでない。他の学年に比べても遜色のないほど明るく、1年生というゆっくりとした時間を友人たちと謳歌している。一人暮らしを始めた者は既に手慣れたもので、人によっては非常に上手に料理をする者も出てきている。ようやく大学生という新しい身分に慣れてきたところだ。

前期の間は歯学部と言っても歯に関することには、ほとんど触られることがなかったが、後期に入るとともに次第に歯学部らしい授業へと変わってきた。「望むところだ」という気持ちと、「自分は歯科医師として本当にやっていけるのか」という少し不安な気持ちも芽生えてくる。この気持ちはクラスの仲間の多くが感じているだろう。現在、私たちはそれを解消するために前期よりも少しだけ真面目に人生を歩んでいる。

つらかった大学受験を終えて一息ついていたところだが、また6年後には国家試験がある。多方面の方々が口をそろえ言われるのが「国試は大学受験よりも厳しい」という言葉だ。そろそろ浮かれた気持ちに一区切りつけ、それに向けてエンジンをかけていかなければならない。途中でガス欠にならないように、適度に友人たちと遊び、助け合い、そして今後は歯科医師として求められる教養や振る舞い、そして激務に負けない体力を身に付けていくように精進していきたい。



日本大学お茶ノ水キャンパス体育施設にて



## 疾風に勁草を知る

第 6 学年主任 落合 邦康

歯学体を終えクラス全員が国家試験の追い込みに入りました。今年は、猛暑に加え、震災による節電対策で夏休み中の学習場所確保に苦労した諸君もいたと思います。このような環境下でも、模試やマッチング情報交換など毎週の連絡会を始め、クラスは一丸となって頑張っております。また、今年から学生を基礎講座に配属する試みや過去問題のCD化による統括的な学習など、大学からも多くの支援と協力をいただいております。

国家試験は越えなければならない関門かもしれませんが、難しくなったといわれますが、新卒受験者の80%以上が合格する資格試験です。経験から申し上げますと、残念な結果に終わった学生の大部分は、「何とかなる」という気分がぬけず、最後まで自主的に学ぶ姿勢が身につけられなかったようです。つまり、自己実力の判断と自律性が十分でなかったといえます。国家試験における各教科の重要項目は変わりませんが、内容が多岐にわたるため短期間で網羅することは困難です。従って、低学年から自覚を持ち、自主的に学ぶ姿勢が求められます。

歯学体はスポーツの大会。総合得点で上位になることはすばらしい。国家試験は智力の大会。合格率で常に上位を目指すことは、日本大学歯学部が文武両道であることを日本中に周知する絶好の機会。また、「疾風に勁草を知る」のたとえのごとく、国家試験は自分自身を知る良い機会。向き合うのは試験問題ではなく、自分自身といえます。Study and study and study! 全員で頑張りましょう。(教授 細菌学)



## 第43回歯学体を終えて

正評議委員 有馬 詩織



第43回全日本歯科学学生総合体育大会の夏期部門が7月30日から8月11日の13日間、日本歯科大学生命歯学部事務主管のもと、東京都を中心に行われました。今大会は冬期部門のアメリカンフットボール、スキーが東日本大震災の影響を受け、残念ながら中止となり、デンタルポイント制度はとりやめとなりました。

さて、私が評議委員として応援に行くのは、今年で3回目。毎年、どのような試合、どのような日大生の姿が見られるのかとても楽しみでしたが、今年はそれに加えて、地震の影響による試合会場の安全面等が気がかりでした。しかしながら、万全とはいえない環境の中、どの大学の選手達も毅然とした態度で試合に臨んでいました。その姿はどんな状況下でも1年に一度の歯学体という舞台で自分達の持てる力を全て出し切ろうという熱い気持ちを表していました。応援に行くと必ず「来て良かった！」と思わせてくれる日大生を心から誇りに思いました。

本学部の成績は各部門で様々でしたが、来年度に向けての目標が見えてくる実り多い大会となったと思います。これからもクラブ活動を支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れずに日々の練習に励んでもらいたいと思います。

来る第44回の歯学体は鹿児島大学歯学部を事務主管として開催される予定です。本学部が事務主管となる第45回歯学体に向けて、本学部の存在感を示してきてほしいと思います。

最後となりましたが、各クラブの皆さん、諸先生方、関係者の皆様、ご協力頂いた全ての方々、ありがとうございました。また、歯学部、歯学部後援会、歯学部同窓会のかわらぬ温かいご支援にこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。

(第5学年)

今回はデンタルポイント制度を行わなかったため、各大学の総合成績はありません。本学部の入賞した部門順位のみ、下記のとおりご報告いたします。ただし、陸上競技に関しては、東日本大震災による被災校等に配慮し、大学別順位は決定しませんでした。

### 本学部が入賞した部門とその順位

夏 期 部 門			
1位	バスケットボール	5位	サッカー
3位	剣 道	"	ゴルフ
"	少林寺拳法	"	アーチェリー
"	日本拳法	6位	ヨット
"	水 泳	8位	ソフトテニス
4位	柔 道		

## 日本大学からのお知らせ

### 学生としてのモラル遵守と ネット利用の注意について

本学の学生がtwitter等に、社会的なルールから外れた行為を行ったという内容を書き込む事例が報告されています。

こうした書き込みは、その内容とともに本人の個人情報の流出を招き、流布されるばかりではなく、大学の名誉を著しく傷つけ、同じ大学に集う学友、自らの家族、校友など多くの関係者に多大な迷惑を及ぼします。

学生としての本分に反する行為が判明した場合には、学則に基づいて厳正な処分を行います。また、あたかも上記に示すような行為を行ったように見せかけるなど、安易な気持ちでSNS、個人のブログ、twitter等への書き込みを行い、大学の名誉を傷つけた場合についても処分の対象とします。

学生としてのモラルを遵守し、また軽率な行為に及ぶことのないよう、十分留意してください。

## 桜歯祭に向けて

実行委員長 下川紗百合



今年も10月21日(金)・22日(土)に桜歯祭・駿技祭・翔衛祭が行われます。今年のテーマは「LOVE & TEETH」、テーマカラーは「黒×ピンク」に決まりました。このテーマは「LOVE & PEACE」のPEACEの部分に歯学部らしさを出してTEETHにしたものです。歯の大切さを感じて、歯に愛情を持っていただきたいと思い、このテーマにしました。

今年は3月の震災を受け、チャリティー企画で被災された歯科医師とボランティアに行った歯科医師の講演会を行います。多くの方に歯科医師のありがたさについて考える機会になればと思います。また、今年から理工学部との合同企画を行うことにしました。これを通して学部間の交流が深まればと願っています。

もちろん、毎年恒例の企画も盛り沢山です。たくさんの方々のご来場をお待ちしています。  
(第4学年)

### 「桜歯祭」実行委員会部門責任者 ( )内は学年

委員長	下川紗百合(4)
副委員長	須田 駿一(3)
総務	大西紗也子(4)
会計	小宮 瑠里(4)
渉外	松田結花子(4)

### 「駿技祭」実行委員会部門責任者

委員長	清野 権(2)
副委員長	渡邊 貴弘(2)
"	坂爪 秀行(1)
会計	長澤 重雄(2)
"	前原 佑輝(1)

### 「翔衛祭」実行委員会部門責任者

委員長	芝崎 杏(2)
副委員長	佐藤 維織(2)
"	佐藤くるみ(1)
会計	一木万里奈(2)
"	松崎 舞(1)

## NU祭に向けて

実行委員長 永井 智也



NU祭というのは、日本大学の全学部と付属高校が一つのテーマのもとで、それぞれの特色を生かした企画を行う学園祭の事です。今年のテーマは「Next-U みんなでひとつに」に決定し、歯学部では「いちにち歯医者さん」という企画を行います。ここでは歯科治療の模擬体験や、歯科材料を使っている歯型ストラップや指の模型作り、自分の口の健康状態のチェックなどが体験できます。来場者の皆さんに歯科をより一層身近に感じていただけるよう、実行委員全員で盛り上げていこうと思いますので、皆様のご来場を心よりお待ちしております。  
(第5学年)



## 柔道部

主将 永井 智也

柔道部はプレイヤー9人、マネージャー3人の計12人で活動しています。プレイヤーのほとんどが大学から柔道を始めましたが、OBである師範の指導のもと、週1回の練習でありながらも日大松戸歯学部や東京医科歯科大学の柔道部、そして柔道日本代表の棟田康幸選手などが練習に参加してくれるため、関東大会やデンタルでは常に好成績を残しています。また、今年は女子プレイヤーが入部し、柔道部は個性豊かなメンバーが揃いました。練習以外にも部員みんなでBBQに行くなどのイベントがあり、先輩後輩関係なく和気あいあいとした中で、柔道と勉学に充実した大学生活を送っています。柔道の創始者である嘉納先生の教えに基づき、文武両道を目指してこれからも頑張っていきたいと思っています。





## オピニオン



春から口腔外科学 に在籍の大学院 1 年生になった。大学を卒業して『1 年生』に逆戻り。大学院の仕事覚えたりする様子は、部活の 1 年生時を思い出す。大学院に入学して臨床と研究を両立することの大変さを実感し、先輩方のすごさに敬服するばかり。要領が悪い自分はいかに両立できるか暗中模索の日々である。そんな日々の中、気晴らしによく車を運転する。ワゴンタイプの一般的な車体だが、マニュアルである。これは譲れない。オートマにない『操作してる』感が楽しい。ただ周囲へこのように話すとしばしば走り屋と誤解される。姉からはやめると諭される始末。当然、安全運転である。運転も歯科治療も、事故なく安全にしていきたい。

(大学院 1 年 瓜生 豪)

大学院に入学してあつという間に 2 年半が過ぎた。研究や矯正学の勉強、臨床と学ぶことが多くただがむしゃらに今日まで突き進んできた。始めの頃、矯正学の知識は浅く、研究の進め方や実験の仕方も全くわからなかった。そんな自分に焦り、時には壁にぶつかり悩んだ。そんな時、周囲の先生方に指導していただいたり、多くのアドバイスで救われる。また同期の友達やある時は患者さんに励まされる。今振り返ると、とても幸せな毎日だと思う。残る学生生活もあと 1 年半。多くのことを吸収できるように・・・そして悔いが残らないように、ただ前を向いて走り抜き、1 年半後の桜の花が咲く頃にはステップアップしていきたい。

(大学院 3 年 松田 麻紀)

11 年前、まだ中央大学の学生だった私は、友人と食事をするために訪れた御茶ノ水で初めて日本大学歯学部存在を知った。高校時代からずっと文系志望だった私は、「こんな街中に歯学部があるんだね。歯学部って歯医者ってこと？」などと何気なく話しながら学ロビの前の坂を下ったのを覚えている。結局この日がきっかけとなり、私は本学に籍をおくこととなった。編入してからあつという間の 10 年だった。歯科医師になってからはいつの間にか 5 年が過ぎた。いつも一生懸命に突っ走ってきた。これまで余裕がなくて見えなかったこと...患者さんの気持

ちや、周りの環境。これからの 10 年は、必死で駆け抜けるだけではなくひとつひとつの出来事を大切にしていきたいと思う。

(社会人大学院 4 年 福本 宗子)

総義歯補綴学に大学院生として在籍してから、早 1 年が経ちました。振り返ると、在籍してからはとても大変な日々でした。分からないことがあっても、分からないことが分からなかったので、医局の諸先輩方にアドバイスを頂きながら、とにかく一生懸命頑張りました。我武者羅に走ってきた日々を振り返ると、本当にいろいろな人に支えられてきたことを痛感します。どんな過酷な状況も過去になっていく、その過程にある人の優しさ、その大切さを知ることができました。大学院 2 年生になったこれからも初心を忘れず、何事にもめげずに一層努力していきたいと思います。(大学院 2 年 福井 雄介)

私は、小児歯科学に在籍し、4 年目を迎えました。入局当初は、泣いたり暴れたりする患者さんの治療に戸惑ってばかりでした。しかし、最近では、私より身長が低かった子が、私より身長が高くなり、治療中泣いたり暴れていた子が「歯医者さん大好き。」と言うようになってたり、また、反抗期を迎えた子がいたり患者さんの成長を感じられる日々になりました。これからは、臨床を行いながら患者さんの成長を見続けていくとともに、研究を行うことで小児歯科医療により貢献できるようになりたいと思います。(大学院 2 年 西山 未紗)

8 月に、中国の山東大学から留学生が歯科放射線学教室にやってきた。私は言葉の壁にぶつかり最初はほとんどコミュニケーションがとれなかったが、留学生の先生は積極的に臨床や研究に参加されたこともあって、教室の雰囲気ですぐに打ち解けてくれた。そんな中、私と彼女の 2 人で 1 泊 2 日の日光旅行に行ってきた。東照宮や華嚴の滝などの観光名所を一緒に回ったり、温泉にのんびり浸かったり、おいしいゆば料理を食べたりと本当に楽しい旅行だった。1 か月間と短い滞在であったが、私にとって忘れられない夏の思い出になった。言葉が通じなくても相手を思いやれば心は通じることを教えてくれた彼女に感謝したい。

(社会人大学院 4 年 甲斐由紀子)

## News Plus $\alpha$

### 歯学部を見学

8月23日に日本大学第一中・高等学校並びに千葉日本大学第一高等学校の生徒19名と引率教員3名が本学部を訪れ、附属専門学校を含めた現況説明のあと歯科治療の模擬体験や附属歯科病院を見学した。

### 改修工事

4月に大講堂の机と椅子、6月に図書館閲覧室の椅子をリニューアルした。また、5月に着工した歯科病院1階口腔診断科及び4階小児歯科診療室の改修工事が8月に完成した。